

歴史探訪

JR恵那駅より南南東に11km.岐阜県・長野県・愛知県の3県の県境が交わる地点。山の中に忽然と現れた石積み、**「岩村城址」**

初めて訪れる地で、山城の跡と聞いていた為、小さな出城の痕跡でも残っているのかと思いきや、とんでもない思い違い、実にみごとな石積みが眼前にせまり驚愕と感嘆でしばし言葉も出ない。石積みは美しいカーブを描き、上にいくほど垂直になり頂上では外側に張り出しているようだ。がっしりと組まれた石は、指を差し込む隙間もないほどみごとに組み合わせられ、一分の乱れもない。美しい。この直線と曲線の織り成す建造物はどっしりと安定し、どれだけ見ても飽きることのない、人を魅了してやまない一種神秘的な美しさを漂わせている。築城主は遠山景朝、築城は1221年とあり790年も前に造られているのか。その間幾多の地震もあったであろうが、堂々と威厳を保ち、静かにたたずんでいる。まさに日本のお宝であろう。

このような遺跡を見るとき、当時の人たちの建造の労苦が如何ほどのものであったかを考えてしまう。現代であればあらゆる重機を利用し短期間に創り上げることも難しいことではないが、人の力と牛馬の利用しかない700年前によくぞ斯様なものを造ってしまったものだ。おそらく今からまだ何百年とこのままあり続けるのだらうと思うと、驚愕である。



地元の方たちは、この偉大な遺産を、自然な形で保存されていることは賢明であろう。ありのままの姿で展示し、当時の歴史を紐解き、戦国時代の武将たちの、また城下町での町人たちの生業に思いを馳せ、当時をしのぶには、やはりこのままの、苔むした石積みであり、700年前の方達が歩いたであろう、足跡がのこっているような土の道であると思う。

鉄筋コンクリートの天守閣など建て、観光名所にして観光客がどっと押し寄せたら、全く違った感覚になってしまうのだらうと思うからです。

行かれた事がない方は是非訪れて見てください。一見の価値あるところと思いますよ。

参考までに岩村城の、ある時期の歴史物語。

遠山景朝が1221年に築城し、その後、1570年遠山景任のとき、当時は岐阜に居た織田信長は、60キロ離れたこの岩村城を東美濃の要衝と位置付け、自分の勢力に組み入れる為に、自分の叔母、お艶の方を遠山景任に嫁がせた。政略結婚ということですね。

一方、甲斐の国の武田信玄の勢力と、織田信長の勢力とがガチンコすることになり、信玄は配下の武将秋山信友に命じて岩村城の陥落を計った。しかし岩村城は落城しなかった。そのうち遠山景任は病死してしまった。お艶の方は後家さんになってしまった。岩村城は女城主となりました。武田信玄派の武将秋山信友は、力づくでは落城しないことを知り奇策に出た。

敵方の後家さん城主であるお艶の方を、自分の嫁として自分の妻としてしまったのである。

なんとということをするのだらう。

これまた政略結婚である。

この頃の武将たちは女性をなんと心得ていたのか。まるで道具のように、自分の都合のいい様に扱っている。

当時の女性たちもこれが世の常と諦めていたのだらうか。

秋山信友の奇策は城外から攻めず、城内から陥落し、成功したかに見えたが、やがて、織田信長の逆鱗に触れる事となり、秋山信友、お艶とも捕らえられ、長良川畔において、磔(はりつけ)の刑に処せられてしまう。

哀れなるかな、お艶の方。現代であれば、訴えれば人権擁護委員会が絶対に守ってくれるものを。



中島会計理事、太田監查理事より、平成22年度の会計収支報告が御座いました。下記に要約を示します。

平成22年度会計報告(要約)

	収 入	支 出
前期繰越	-23,862	
会社助成金	350,000	
会員参加会費	19,000	
会員参加会費	21,000	
会員参加会費	210,000	
会員参加会費	145,500	
総会忘年会助成	72,000	
寄付金	20,000	
利息	40	
イベント費		679,823
通信費		56,140
事務用品費		20,585
会議費		1,650
連絡網補助		10,000
祝い・見舞い・礼		8,100
次期繰り越し		37,380
合 計	813,678	813,678

平成21年度の会計報告をします。



報告に間違いは有りませんでした。

